

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1910 号

Primary Care Physicians' Use of Antipsychotics for the Treatment of Behavioural and Psychological Symptoms of Dementia in Japan

(本邦かかりつけ医が対応する認知症の行動・心理症状 (BPSD) 治療における抗精神病薬処方の実態について)

高山 敏樹 (たかやま としき)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、日本国内で認知症診療のプライマリケアを担う「かかりつけ医 (PCP)」が、BPSD に対してどういった抗精神病薬使用を実践しているのかを把握するべくアンケート調査を実施し、その内容を検討したものである。アンケートの結果からは、一定数の PCP は、認知症高齢者への抗精神病薬投与は死亡率を高める危険性を有するにも関わらず、依然として徘徊などの非興奮性 BPSD に対して抗精神病薬を使用していることが明らかとなった。また統計解析からは、PCP の学習手段として厚生労働省が作成したかかりつけ医のための BPSD ガイドラインを参照することが、抗精神病薬投与を控えること及び認知症高齢者に対する抗精神病薬使用の危険性に対する意識を向上させることに強く影響をしていた。これらの結果から、厚生労働省作成のガイドラインのように、認知症高齢者に対しての抗精神病薬使用が死亡率を高める危険性について具体的な言及がある資料を参照することが、PCP の抗精神病薬適正使用を促進するうえで有益である可能性が示唆された。

本論文は、本邦における PCP の認知症高齢者に対する抗精神病薬の使用実態を明らかにし、また認知症高齢者への抗精神病薬適正使用を推進するうえで、具体的な危険性の記載を盛り込んだガイドライン形式での学習機会の提供が、その効率性を高める可能性を示唆した臨床的に意義ある論文である。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。